

平成29年度 五ヶ瀬町立坂本小学校自己評価書

評価については、4段階評価（A：期待以上 B：ほぼ期待通り C：やや期待以下 D：大幅な改善を要する） C、Dの評価については、理由及び改善の取組等を記述。

No		評価項目	評価	理由及び改善のための取組等
1	職員・満足度 子ども及び の態度	子どもたちは、毎日楽しそうに学校に通っている。	B	○ 保護者アンケート調査では、4、5の項目において、昨年度より0.2ポイント上昇、他の項目については昨年度と同様であった。 ○ 子ども達のアンケート調査においても、「困った時に先生は相談のしてくれる。」という割合が90%を超えており、他の項目に比べて大変高く、自己評価をAとした。 ○ あいさつについては、昨年度と同様、保護者・教職員共に「よくできている」という割合が他の項目に比べて低く、今後の大きな課題である。学校内ではよくできていても、学校外でのあいさつが今一歩という評価が多いため自己評価をCとした。
2		職員は、教育活動に熱心に取り組んでいる。	A	
3		職員は、まとまりがある。	B	
4		保護者や子どもが学校生活に悩みがあって相談したとき、職員は親身に応じている。	A	
5		職員は、本校に来校した地域住民や保護者に明るくていねいに対応している。	A	
6		学校行事や体験活動には、地域住民や保護者が参観しやすいよう工夫している。	B	
7		子どもたちは、学校内外でしっかりとあいさつができています。	C	
8	保護者地域と の交流	普段から教職員と保護者で交流ができています。	B	○ 地域の行事に対しては、子ども達も職員も積極的に参加した。特に坂本城址奉祭りや敬老会、例大祭については、事前の練習をくり返し、地域の方々喜んでいただけるよう準備した。
9		教職員が地域の行事に積極的に参加するなど、地域住民との交流ができています。	A	
10		地域の行事に子どもたちが積極的に参加・協力する体制ができています。	A	
11	危機管理・情報公開	子どもたちのけがや病気に対して、適切に対応している。	B	○ 保護者アンケート調査では、13、14、15の項目が昨年度に比べて0.2～0.4ポイント上昇した。しかし、職員による評価では、いじめ防止のための対策や対応等について、さらに校内体制を充実させた方がよいという意見もあり自己評価をBとした。 ○ 防災メールや非常時訓練等、災害時の対策については、万全を期すよう努力しており、保護者にも一定の評価をいただいている。特に、本年度は、風水害、地震、火災、不審者対応についての訓練の他、「ミサイル発射時」の訓練についても実施した。子ども達には、常々「考えて行動すること」の指導をくり返している。今後も、命を守るための非常時訓練については、計画的に実施していく。
12		防災訓練や緊急連絡等の一斉メールなど、非常災害時の対策を講じている。	A	
13		学校の教育方針や重点的な取組が明確で、保護者に浸透するよう努めている。	B	
14		いじめ防止のための対策やいじめ発生時の対応・体制がとれている。	B	
15		配付資料やホームページ等で、学校や子どもたちの様子を適切に公開できている。	B	
16		職員は、学級の状況をよく把握し、教育懇談会などの保護者会において、保護者に学校・学級の様子をよく伝えている。	B	
17		保護者面談等において、子どもたちの様子を保護者と共有することができている。	B	
18	環境	学校内の掲示物を工夫するなど、児童の学習環境が整えられている。	B	○ 子ども達は、一人一人の清掃範囲も広く、なかなか行き届かない所もあるが、ボランティア活動や清掃時に一生懸命取り組んでいる。
19		清掃・整理整頓が行き届いており、明るく清潔な環境の中で教育ができています。	B	
20	重点取組事項と成果	諸学力調査の結果を分析・考察し、指導に役立てている。	B	○ G授業は、保護者も職員も子どもの成長につながる取組であると評価している。また、子ども達のアンケート調査においても、「G授業は、楽しく自分のためになる」の割合が90%を超えており、他の項目に比べてかなり高い。よって自己評価をAとした。 ○ 授業力向上のために、全職員が年1回は研究授業を行い、県及び町教委の指導を受けながら質の高い授業を目指してきた。 ○ 国語科の学習等で学んだことを発表するスピーチ集会を今年度も行っている。どの学年も創意工夫しながら取り組み、発表内容や発表態度もかなり向上してきている。また、絵画においても、様々な作品展において入賞者が続出した。子ども達の表現力育成のために学級担任が熱心に指導した成果が表れている。
21		児童一人一人の学力を的確に把握し、学習指導を展開している。	B	
22		授業力向上のための研究授業や研修の充実を図っている。	A	
23		小学校相互に効果のあるG授業の実践を積み重ねている。	B	
24		G授業は、子どもの成長につながっていると感じる。	A	
25		外部機関と連携した取組を指導に生かしている。	B	
26		各種調査結果より本校の授業等で、子どもたちの学力が向上している。	B	
①		学力向上タイム（国・算）を計画的に行い、習熟を図っている。	B	
②		読むこと・話すこと（音読、スピーチ集会等）、書くこと（作品づくり、ノート指導等）をとおして、表現力の育成に努めている。	A	
27		豊かな心	地域の人材や資源を学習活動等に効果的に活用するなど、五ヶ瀬（地域）のよさを幅広く認識する教育活動を意図的に実施している。	
28	学校行事や体験活動の目的等は、保護者に理解され、内容は充実している。		B	
29	本校の教育活動により、子どもたちが成長している。		B	
③	「あいさつをいつでも どこでも だれにでも」が実践できている。		C	
④	危機管理体制を充実させ、家庭や地域、関係機関と連携して、安全教育の徹底に努めている。	B		
30	健康・体力	朝食、早寝早起き、健康な歯や口腔の衛生等、健康的な生活習慣づくりのための取組に努めている。	B	○ 今年度の体力テストの結果は、36名の児童のうち、A判定が19名（昨年度10名）とかなり向上した。また、判定が上がった児童も15名いた。これらは、体育の授業はもちろんのこと、校舎内で、いつでも運動に親しめる場を設定したり、季節毎に体力向上のための場を設定したりして、積極的に取り組ませたことが要因ではないかと考えている。 ○ 保護者アンケート調査では、生活リズムに関する評価が低い。今後、学校と家庭がさらに連携を深め、改善していく必要がある。
31		テレビやゲーム等のメディア利用の適正化に向けて、家庭と連携した取組に努めている。	B	
32		体力テストの得点値が対前年度比で向上している。	A	
33		体力向上プランを、体育科学習の工夫改善に役立てている。	B	
34		体力テストの結果や体力向上プランをもとに、児童生徒の体力向上にしっかりと取り組んでいる。	B	
⑤		「早寝・早起き・朝ご飯」の実践を身に付けている。	B	
⑥	体育指導や立腰指導により心身の健康増進が図られている。	B		

【平成29年度の総括評価】

○ 保護者アンケート調査結果では、昨年度と比較し、0.2ポイント以上低くなった項目はなく、逆に0.2ポイント以上高くなった項目が9項目であった。しかし、職員による自己評価では、0.2ポイント以上下がった項目が8項目であった。保護者と職員の評価結果に若干の相違が見られるが、職員としては昨年以上の取組や成果を目指すあまり、自己評価が厳しくなったものと思われる。

○ あいさつについては、学校外においても「いつでも どこでも だれにでも」が実践できるよう、指導の継続が必要である。

○ 学力向上のための授業改善やG授業での取り組み、学力向上タイム等の効果的な活用により、子ども達の基礎的・基本的な学習内容の定着をさらに高めていきたい。

○ 来年度より新学習指導要領の移行措置期間となる。3年生から外国語活動も実施となる。移行措置に向けた準備をしっかりと行い、スムーズな移行が行われるよう、全職員で協力しながら進めていきたい。